

## 教員資格及び教育内容等の自己評価書

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人当たりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	規準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
医療学部・理学療法学科	12人	0人	6人	3人	21人	21人	12人	0人	35人	9.5人	教授には特任教授を含む
計	12人	0人	6人	3人	21人	21人	12人	0人	35人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基 礎	心と身体の理 解	心理学	15	金井桂子	兼任
		健康スポーツ科学	15	栗田剛寧	専任
		心の健康と運動	15	中原英子	専任
	コミュニケー ションと情報 の理解	教育学	15	高野結衣	兼任
		臨床教育学	15	山野宏章	専任
		人間関係学	15	高井 範子	専任
		英語コミュニケーションⅠ	15	仲渡一美	専任
		英語コミュニケーションⅡ	15	仲渡一美	専任
		医学英語	15	仲渡一美	専任
		キャリアセミナー	15	水野稔基 濱岡克伺 鶴崎智史 栗田剛寧 山野宏章 内藤卓也	専任 専任 専任 専任 専任 兼任
		統計学	15	幸田利敬	専任
		情報処理演習	15	三井哲裕	兼任
		脳と心	15	三雲真理子	兼任
	科学と社会環 境の理解	法学	15	戸浦雄史	兼任
		社会福祉学	15	鶴崎智史	専任
		栄養学	15	福井紀子	兼任
		生化学	15	高畑佳史	兼任
		公衆衛生学	15	河野公一 河野令 横山浩孝	兼任 兼任 兼任
		生命倫理	8	行岡秀和 丸野元彦	兼任 兼任

専門基礎	人体の構造と機能	運動器系解剖学	15	濱岡克伺	専任
		内臓系解剖学	15	稲垣忍	専任
		神経系解剖学	15	稲垣忍	専任
		運動器系生理学	15	松野悟之 鶴崎智史 幸田利敬	専任 専任 専任
		内臓系生理学	15	稲垣忍	専任
		解剖学実習	22.5	稲垣忍 松野悟之 水野稔基	専任 専任 専任
		生理学実習	22.5	幸田利敬 神里巖	専任 専任
		運動学	15	粕淵賢志	専任
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	15	小仲邦	専任
		臨床心理学	15	金井桂子	兼任
		内科学	15	小仲邦	専任
		整形外科学	15	森友寿夫 前達雄	専任 専任
		神経内科学	8	小仲邦	専任
		精神医学	15	鐘本英輝	兼任
		小児科学	8	仁科昌久	兼任
		脳神経外科学	15	丸野元彦	兼任
		救急医学	15	行岡秀和	兼任
		薬理学	8	中原英子	専任
		医用画像学	8	森友寿夫 丸野元彦 中原英子 井坂昌明	専任 兼任 専任 専任
		臨床検査学	8	中原英子	専任
		スポーツ傷害学	8	前達雄	専任
		ペインリハビリテーション	15	山野宏章	専任
	老年期障害学	8	濱岡克伺	専任	
	発達障害学	15	宇野里砂	兼任	
	保健医療とリハビリテーション	リハビリテーション医学	15	大澤傑	専任
		生活支援学	15	濱岡克伺	専任
		チーム医療学	8	中原英子 西田斉二	専任 兼任
		感染対策	8	林智也	兼任
		医療安全学	8	横山浩誉	兼任

専 門	基礎理学療法	理学療法学概論	15	山野宏章	専任
		運動療法学	8	粕淵賢志	専任
		運動療法学演習	15	神里巖	専任
		物理療法学	8	鶴崎智史	専任
		物理療法学演習	15	鶴崎智史	専任
		日常生活活動学	8	松田淳子	専任
		日常生活活動学演習	15	粕淵賢志	専任
	障害の評価	理学療法評価学	15	松野悟之	専任
		運動器障害評価法Ⅰ	15	松野悟之 水野稔基	専任 専任
		運動器障害評価法Ⅱ	15	山野宏章	専任
		神経障害評価法	15	松田淳子 瀧岡克伺	専任 専任
		内部障害評価法	15	井坂昌明	専任
		臨床運動学演習	15	栗田剛寧	専任
		運動器障害理学療法	8	粕淵賢志	専任
		運動器障害理学療法演習	15	粕淵賢志	専任
		脳機能障害理学療法	8	松田淳子	専任
		脳機能障害理学療法演習	15	松田淳子	専任
		内部障害理学療法	8	井坂昌明	専任
		内部障害理学療法演習	15	井坂昌明	専任
		発達障害理学療法	8	紀伊克昌 堅田志保 吉田真司 佐藤邦洋	兼任 兼任 兼任 兼任
		神経筋障害理学療法	15	鎌田理之 加藤直樹	兼任 兼任
		脊髄障害理学療法	8	鎌田理之 加藤直樹	兼任 兼任
		地域リハビリテーション	15	鶴崎智史 松尾薫	専任 兼任
		老年期障害理学療法	15	水野稔基	専任
		スポーツ傷害理学療法	15	神里巖 栗田剛寧	専任 専任
		理学療法特論	8	井坂昌明 松野悟之 南野博紀	専任 専任 専任
		義肢補装具学	15	瀧岡克伺 大垣昌之 高木啓至	専任 兼任 兼任
		理学療法管理学	15	行岡久美子 幸田利敬 粕淵賢志 福田昭雄 井上泰博 田中和子 森田薫 山下美穂 鶴崎智史	兼任 専任 専任 兼任 兼任 兼任 兼任 兼任 専任



臨床実習	臨床体験実習	30		
	臨床評価実習	180		
	臨床総合実習Ⅰ	240		
	臨床総合実習Ⅱ	240		

【自己評価2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
<input type="radio"/>	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
<input type="radio"/>	シラバスの記載が十分ではない。	2
<input type="radio"/>	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
<input type="radio"/>	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
<input checked="" type="radio"/>	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4

	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連科目名	開講時期
通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの見学及び体験	2年前期	臨床体験実習	2年前期
		キャリアセミナー	1年全期
		社会福祉学	1年前期
		感染対策	1年前期
		理学療法概論	1年前期
		生活支援学	1年後期
		理学療法評価学	1年後期
理学療法業務の見学及び理学療法評価の実践	3年後期	臨床評価実習	3年後期
		理学療法評価学	1年後期
		運動器障害評価法Ⅰ	2年前期
		運動器障害評価法Ⅱ	2年前期
		臨床運動学演習	2年前期
		日常生活活動学	2年後期
		神経障害評価法	2年後期
		臨床検査学	3年前期
		内部障害評価法	3年前期
理学療法学総合演習Ⅰ	3年前期		
理学療法の対象となる疾患について障害評価から治療計画立案までの過程を実践し、理学療法の一部を体験する	4年前期 4年後期	臨床総合演習Ⅰ	4年前期
		臨床総合実習Ⅱ	4年後期
		医用画像学	2年前期
		運動療法学	2年前期
		物理療法学	2年前期
		医療安全学	2年後期
		日常生活活動学	2年後期
		運動器障害理学療法	3年前期
		脳機能障害理学療法	3年前期
		地域リハビリテーション	3年前期
		理学療法学総合演習Ⅰ	3年前期
		ペインリハビリテーション	3年後期
		内部障害理学療法	3年後期
		発達障害理学療法	3年後期
		神経筋障害理学療法	3年後期
		脊髄障害理学療法	3年後期
老年期障害理学療法	3年後期		
スポーツ傷害理学療法	3年後期		

【自己評価3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3

○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検評価委員会
委員名（委員長）	行岡久美子(委員長)
組織の開催頻度	週1回
組織の取り組み内容	・受験生確保
	・大学のイメージアップ
	・学内環境改善
	・広報
	・学生満足度の改善

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携</li> <li>・学業達成率の向上</li> <li>・国試合格率の向上</li> <li>・大学の特色の強調</li> </ul>
自己点検・評価結果の公表	ホームページに一部公表

【自己評価4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	教員及び事務職員
	改善の仕組みの実際	教務委員会において改善点を検討し、各教員に事務より伝達する。提出されたシラバスを教務委員会で確認する。

【自己評価4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>学長のリーダーシップにより、自己点検評価委員会及び教授会で2024年度の課題を自己点検評価委員会で確認し、各委員会で検討・対応を実施する。その後、各委員会から自己点検評価委員会及び教授会に経過及び結果報告を行う。自己点検評価委員会及び教授会は報告に対して、指摘・指示を行い、新たな課題を付す過程をとっている。</p>
---